

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2015年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、4月中旬までは接岸し、その後は離岸する。
- ・足摺岬～潮岬沖では、4月下旬までは接岸する。5月以降、小蛇行の東進により一時的に離岸する。

◎潮岬以東

- ・4月はC型で推移する。
- ・5月以降はN型となる。
- ・房総沖では、離岸傾向で推移する。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、概ね冷水域となる。黒潮流路の変動に伴い、一時的に暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、4月は概ね冷水域に覆われる。5月以降は暖水域に覆われる。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・冷水の影響が強い。ただし、黒潮の流路変動により黒潮系暖水が波及することがある。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は、「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「低め」で推移するが、暖水波及時には一時的に「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、4月は「低め」、5月以降は「高め」で推移する。
- ・房総沿岸域は、「平年並」～「やや低め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2014年12月～2015年3月）（注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・12月はN型で推移した。
- ・1月上旬にB型、1月下旬にC型となった。
- ・2月上旬、伊豆諸島南部海域に冷水域があるC型であるが、小蛇行が潮岬沖を通過して発達し、熊野灘沖にも冷水域が形成された。
- ・2月下旬、伊豆諸島南部海域にあった冷水域が南方に切離され、B型となった。
- ・3月中旬、C型となった。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・黒潮北縁の月平均位置は、12月～1月は屋久島南付近の平均的な位置、2月は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以西

- ・11月下旬、都井岬沖で小蛇行が形成され「著しく離岸」となった。
- ・12月下旬、都井岬沖の小蛇行は東進を始めた。
- ・1月、足摺岬～室戸岬沖を小蛇行が東進した。
- ・1月下旬以降、都井岬沖では「接岸」～「やや離岸」で推移した。
- ・2月上旬～中旬、潮岬沖では小蛇行が通過し「かなり離岸」となった。

◎潮岬以東

- ・12月、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は概ね冷水域に覆われた。
- ・1月、熊野灘～遠州灘は概ね冷水域に覆われた。伊豆諸島北部海域には暖水が波及した。
- ・1月下旬、それまで暖水域に覆われていた伊豆諸島南部海域が、冷水域に覆われた。
- ・2月上旬～中旬、熊野灘～遠州灘に黒潮が流入して、高水温となった。
- ・2月下旬、伊豆諸島南部海域は冷水域が南方に移動したため暖水域に覆われた。
- ・野島埼沖での黒潮は、2月上旬までは平年並で推移したが、2月中旬以降大きく離岸した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・12月、11月に黒潮系暖水が広く波及した影響が残った。犬吠埼沖を黒潮が流れていた。
- ・1月、常磐南部海域には冷水が波及したが、鹿島灘では黒潮系暖水の影響が残った。
- ・2月、冷水が南下し、広く全域に冷水の影響が見られた。
- ・3月、鹿島灘には黒潮系暖水が波及したが、常磐南部海域では冷水の影響が残った。

現況 (2015年3月17日現在)

(1) 黒潮

- ・ C型流路である。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬～潮岬沖で「接岸」～「やや離岸」している。

◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部は概ね冷水域にある。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、冷水域に覆われている。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 鹿島灘には黒潮系暖水が波及している。
- ・ 常磐南部海域は冷水の影響が残っている。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

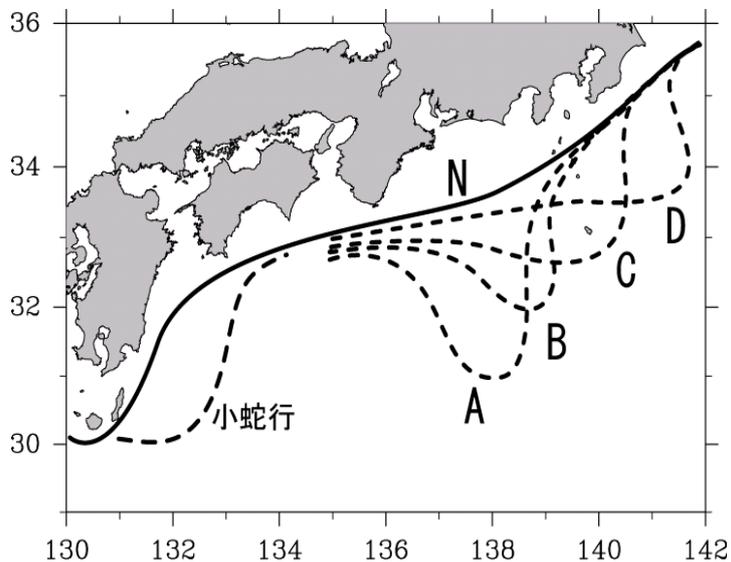


図1 黒潮流型の分類

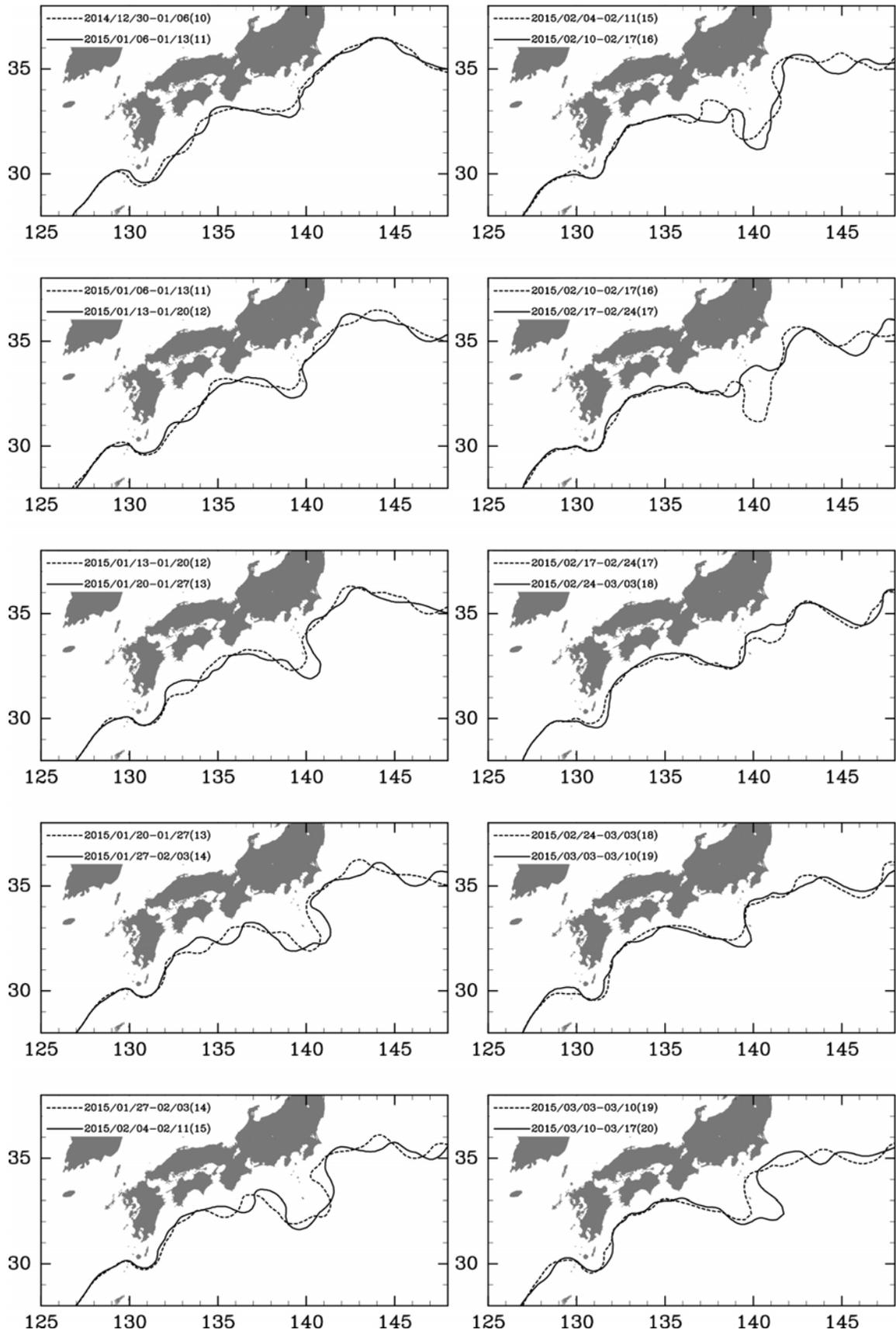


図2 黒潮流軸のパターン

(2014年1月~2015年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、2歳魚（2013（平成25）年級群）、3歳（2012（平成24）年級群）以上。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 渥美外海～駿河湾のマシラス（船曳網）

(1) 来遊量：渥美外海では高水準であった前年並。遠州灘～駿河湾では前年を上回る

(2) 漁期・漁場：6月まで漁獲される。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では前年並。日向灘では前年を上回る。豊後水道南部西側では好調だった前年並～上回る。豊後水道南部東側、宿毛湾、土佐湾では前年を上回る。紀伊水道外域西部では前年並～上回る。紀伊水道外域東部では前年を下回る。熊野灘では前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩、薩南では4月は16 cm～18 cm（1歳魚）、5月以降は8 cm～13 cm（0歳魚）。日向灘では5月までは18 cm～20 cm（1歳以上）、6月以降は11 cm～13 cm（0歳魚）。豊後水道南部では6 cm～12 cm（0歳魚）主体。宿毛湾、土佐湾では7 cm～12 cm前後（0歳魚）と16 cm～20 cm前後（1歳以上）。紀伊水道外域～熊野灘では13 cm以上（1歳以上）。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では前年並。駿河湾、相模湾では前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：期を通じて漁獲される。駿河湾のまき網では散発的な漁場形成。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では12 cm以下（0歳魚）主体に13 cm以上（1歳魚）が混じる。駿河湾、相模湾では14 cm～17 cm（1歳魚）主体に18 cm～21 cm（2歳以上）も漁獲される。期後半には13 cm以下（0歳魚）も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網の漁場は、犬吠埼周辺～常磐南部海域で、期前半は断続的に、期後半はまとまって形成される。仙台湾～三陸南部海域の定置網では5月以降漁獲される。

(3) 魚体：14 cm～17 cm前後（1歳魚）主体に18 cm～21 cm前後（2歳以上）が混じる。

漁況の経過（2014年12月～2015年2月）および見通し（2015年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1970年代後半に増加し、1980年代は1千万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って減少して1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万トン～90万トン台で推移した後再び減少し、2002年以降2007年まで10万トン台の低い水準で推移した。その後2008年～2014年に比較的良好な加入が続いたことと漁獲圧が低下したことにより増加し、2014年は70万トン以上になったと推定されている。

2011年級群は、0歳魚時点で、沖合域の調査船調査結果からは比較的高水準の加入であることが示された。沿岸域では広い範囲で高い加入がみられた。今期も4歳魚として漁獲されるが残存資源量は少なくなっていると考えられる。

2012年級群は、0歳魚時点で、沖合域の調査船調査結果からは比較的高水準の加入であることが示され

た。沿岸域では、相模湾以西の各地では漁獲が2011年級群の同期を下回ったものの、冬春季の常磐～房総海域のまき網漁況に基づく未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）が2000年以降で2010年級群、2013年級群に次ぐ高さであり、加入量水準は比較的高いと推定された。これまで各地で漁獲対象となっており、今期も3歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2013年級群は、0歳魚時点で、沖合域の調査船調査結果からは比較的高水準の加入であることが示された。沿岸域では、未成魚越冬群資源量指数が2000年以降で2010年級群に次いで高かったが、各地での0歳魚としての漁獲は2012年級群の同期を概ね下回る低調な漁況であった。1歳魚時点では、沖合の調査船調査では分布が近年としては多くみられ、沿岸域では道東～三陸北部海域のまき網や三陸海域の定置網でまとまった漁獲がみられた。これらの情報から加入量水準は比較的高いと判断される。今期も2歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2014年級群は、0歳魚時点で、沖合域では、調査船による三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）や北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の結果からは比較的高水準の加入であることが示された。沿岸域では、マシラス、幼魚～未成魚が各地で前年を大きく上回る好漁であり、広い範囲で高い加入がみられた。12月～2月の熊野灘のまき網や仙台湾～三陸海域の定置網ではまとまった漁獲がみられ、漁獲量は前年同期や近年の平均を大きく上回った。これらの情報から、加入量水準は近年において高いと判断され、今期も1歳魚として主たる漁獲対象になると考えられる。

2015年級群は、沿岸域では、これまでにマシラスについて、日向灘、土佐湾、渥美外海で近年では高水準の漁獲がみられ、採集調査では1月～3月の相模湾では出現が少ないものの遠州灘～駿河湾では多く出現していることから、昨年並～上回る高い加入があると見込まれる。沖合域では、加入の主体が3月～5月生まれであることから、今後実施する調査船調査の結果により加入量水準を判断することとなる。なお、冬春季の親潮南下指数（茨城水試）が高いと加入量水準が高くなる関係が指摘されているが、今期の常磐南部以南海域への親潮系冷水の南下は比較的強勢であるため、この関係からは比較的高い加入が期待される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マシラス

渥美外海では、2月まで近年では高水準の漁獲がみられている。遠州灘～駿河湾では2月の調査船調査結果から広い範囲で前年を上回る水準の来遊がみられている。日向灘、土佐湾でのシラス漁業でもマシラスの漁獲が前年を大きく上回っている。以上から来遊量は、渥美外海では高水準であった前年並、遠州灘～駿河湾では前年を上回ると見込まれる。

2) 未成魚・成魚

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、5月以降主体となる0歳魚（2015年級群）は、産卵親魚が前年並に漁獲されていることから、前年並と見込まれる。日向灘では、5月まで主体となる1歳（2014年級群）以上（産卵親魚）は、今期の来遊状況と関係の知られている前期までの宿毛湾～熊野灘での漁況が前年を上回っていることから前年を上回る。6月以降主体となる0歳魚は、マシラスの漁獲が多いこと、周辺海域での産卵親魚が好漁であることから高い水準の加入が見込まれ、前年を上回る。豊後水道南部では、主体となる0歳魚は周辺海域でマシラスや産卵親魚が多いことから前年を上回る。宿毛湾、土佐湾では、これまでのマシラスや1歳以上の漁況が前年を上回っていることから、来遊量は前年を上回る。紀伊水道外域西部では、周辺海域での来遊状況が比較的高いことから、来遊量は前年並～上回ると見込まれる。紀伊水道外域東部では、1月～2月のまき網の漁獲量が近年では最高となり、来遊量は平年（過去10年平均）を上回る比較的高い水準と見込まれるが近年では最高であった前年を下回る。熊野灘では、まとまった来遊がみられ前

期の漁獲が1981年以降最高となっていることから、来遊量は前年を上回る。

- ・漁期・漁場：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：今期の漁獲対象は、この冬春季に発生した0歳魚、および1歳以上の越冬後の未成魚・成魚である。北薩、薩南海域では4月は16 cm～18 cmの1歳魚、5月以降は8 cm～13 cmの0歳魚が、日向灘では5月までは18 cm～20 cmの1歳以上、6月以降は11 cm～13 cmの0歳魚が、豊後水道南部では6 cm～12 cmの0歳魚が、宿毛湾、土佐湾では7 cm～12 cm前後の0歳魚が、紀伊水道外域～熊野灘では13 cm以上の1歳以上が、それぞれ主体となる。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

- ・来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では、主体となる0歳魚（2015年級群）は、前期のマシラス漁獲量が高水準であったことから前年を上回り、好調だった前年並。1歳魚（2014年級群）は、近年の傾向から来遊はわずかで前年並。駿河湾、相模湾では、主体となる1歳魚は、近年では高い加入量水準と推定され、前期までの漁況が好調であることから、前年並～上回る。2歳（2013年級群）以上は、前期の伊豆諸島海域でのサバたもすくいで混獲されるなど、周辺海域への来遊がみられている。
- ・漁期・漁場：近年の傾向から、期を通じて漁獲される。駿河湾のまき網では散発的な漁場形成となる。
- ・魚体：伊勢・三河湾ではこの冬春季に発生した12 cm以下の0歳魚が主体となり、13 cm以上の1歳魚が混じる。駿河湾、相模湾では越冬後の未成魚の14 cm～17 cmの1歳魚が主体で18 cm～21 cmの2歳以上も漁獲され、期後半には13 cm以下の0歳魚も漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

- ・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は1歳魚（2014年級群）主体で2歳（2013年級群）以上が混じる。1歳魚は比較的高い加入量水準と判断されており、前期までの仙台湾～三陸海域の定置網で好漁であり、房総～常磐海域のまき網漁場ではまとまった来遊が認められている。2歳以上は、前期まで三陸～常磐海域のまき網や定置網でまとまった漁獲がみられ、伊豆諸島海域～熊野灘でも漁獲されていることから、今期も漁獲対象となり得る残存資源量が見込まれる。これらから、来遊量は前年並～上回ると考えられる。
- ・漁期・漁場：まき網の漁場は、犬吠埼周辺～常磐南部海域において、期前半は断続的に形成され、期後半は越冬後の北上群を対象にまとまった形成となる。常磐北部海域は現在まき網の操業自粛措置がとられている。仙台湾～三陸南部海域の定置網では、近年の傾向から、北上群を対象に5月以降漁獲される。道東海域ではまとまった漁獲はない。
- ・魚体：14 cm～17 cm前後の1歳魚（小中羽）が主体となり、18 cm～21 cm前後の2歳以上（中羽、ニタリ、大羽）が混じる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2015（平成27）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2015（平成27）年級群）、1歳魚（2014（平成26）年級群）、
および2歳魚（2013（平成25）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾では予測が困難。渥美外海では前年並。遠州灘～駿河湾では前年を下回る。相模湾では前年並～下回る。鹿島灘～常磐南部では前年を下回る。

(2) 漁期：全期間。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南では前年を下回る。日向灘では前年並。豊後水道南部西側では前年並～下回る。豊後水道南部東側では前年並。土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～12cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に7cm以下（0歳魚）も漁獲される。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を上回る。伊勢・三河湾～相模湾では前年並。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：8cm～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に7cm以下（0歳魚）も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総～常磐海域では前年並。三陸南部海域では前年を下回る。三陸北部、道東海域の定置網ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：常磐・房総海域は6月まで。三陸南部海域の定置網は5月以降。

(3) 魚体：9cm～11cmの1歳魚主体。12cm～13cmの2歳魚は少ない。

漁況の経過（2014年12月～2015年2月）および見通し（2015年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移した。2011（平成23）年の資源量は57万トン、2012（平成24）年は58万トン、2013（平成25）年は63万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2013年級群（2歳魚）は、2014年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において、10cm以上の魚体で漁獲され、現存量、有漁点（漁獲のあった調査点）CPUEはいずれも低水準であった。2014年秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において採集された1歳魚（2013年級群）のCPUEは1994年以降で最低であった。また、2013年

11月～2014年6月の常磐・房総海域での11cm以下（1歳魚主体）の漁獲量は16千トンで、1999年以降最低であった前年（12千トン）を上回ったが、前々年（24千トン）を下回った。これらの動向から、2013年級群は最近10年の中で見れば低水準と考えられ、漁獲の主体とはならない。

2014年級群（1歳魚）は、2014年の伊勢湾以東におけるシラス漁況が好調で漁獲量は前年を上回ったのに対し、紀伊水道以西の漁獲量は前年を下回った。0歳魚を主対象とする2014年秋季の房総沿岸2そうまきの漁獲量は、低水準であるものの前年を上回った。2014年秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において0歳魚（2014年級群）は採集されなかった。沖合域では、2014年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）における10cm以下の推定現存尾数および有漁点CPUEが2001年以降最低水準であった。以上の状況から、2014年級群のうち沿岸発生群は前年を上回る海域もあるが、沖合発生群は低水準と考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

西薩～土佐湾では、2015年2月までの漁況においてカタクチイワシ成魚の来遊は海域によって多いものの、今後2歳魚主体の大型成魚の来遊は少ないと予想されるため、シラスの漁場形成については予測が困難である。渥美外海では、予測期間の黒潮流路が当該海域へのシラスの来遊がある程度期待されるC型～N型で推移すると考えられることから、来遊量は前年並と予測される。遠州灘～駿河湾ではカタクチイワシ太平洋系群全体の資源量と3月～6月のシラス漁獲量との関係等から、来遊量は好調であった前年を下回ると予測される。相模湾では、常磐・房総海域から南下する大型成魚の資源水準が低いこと、2014年4月のシラス漁況が好調であったことから、前年並～下回ると予測される。鹿島灘～常磐南部では、2月～5月における海況がシラスの生息・来遊にとって不利な「低め基調」の水温で推移すると予測されているため、前年を下回ると考えられる。

(2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、2014年12月～2015年2月の来遊水準は高かったものの、前年の西薩海域のシラス漁が低調であったことから、非常に好調であった前年を下回ると予測される。日向灘では、近年、常磐・房総海域から南下する大型成魚の来遊はほとんどなく、沿岸発生群の指標となる2014年10月～12月の宿毛湾のまき網漁獲量が少なかったことから、低調であった前年並と予測される。豊後水道南部西側では、漁獲の指標となる2014年12月～2015年2月のシラス漁獲量が前年を上回ったが、2014年4月～7月の漁獲量が1986年以降最高水準であったことから、前年並～下回ると予測される。豊後水道南部東側では、豊後水道外海から来遊するとみられる2歳魚（2013年級群）の資源量が前年と同程度と評価されているが、周辺海域における2014年8月～11月のカタクチシラスおよび0歳魚（2014年級群）の水揚量の推移から1歳魚（2014年級群）の来遊量は少ないと考えられ、全体として来遊量は前年を下回ると予測される。宿毛湾～土佐湾では、近隣海域の漁況経過から前年並～下回ると予測される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘では、漁獲の主体となる常磐・房総海域からの南下群の資源量が減少傾向であるものの、近年、秋季沿岸発生群が増加傾向にあり、2015年2月までにまとまった漁獲がみられたことから前年を上回ると予測される。伊勢・三河湾～渥美外海では、4月以降に2014年級群（1歳魚）および2015年級群（0歳魚）が主な漁獲対象となる。2014年級群の来遊水準は同海域における2014年秋季のシラスが好漁であったことから、来遊量は前年並と予測される。駿河湾では、常磐・房総海域からの南下群が漁獲対象となるが、北部太平洋大中型まき網における漁獲量の動向、伊豆東岸定置網の水揚量の推移から前年並と予測される。相模湾では、漁獲の主体となる2014年級群（1歳魚）および2013年級群（2歳魚）の資源水準が前年と同程度であることから前年並と予測される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

常磐・房総海域における2014年12月～2015年2月の漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は6千トンで、前年同期の13千トンを下回った。漁獲物の構成は、12cm以上（2013年級群主体）が4千トンで前年同期の1/2以下、12cm未満（2014年級群主体）が2千トンで前年同期の約1/2であった。例年、前年漁期の小型成魚が翌年に大型成魚となって再来遊すると考えられ、今期は前年同期をわずかに上回ると予測されるが、2015年2月までの2歳魚（2013年級群）の水揚量は非常に低調である。また、沖合発生群と考えられる1歳魚（2014年級群）の現存尾数は、2014年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）から2001年以降最低水準であった。一方で、沿岸発生群と考えられ2014年9月～11月に来遊した0歳魚（2014年級群）は前年を上回った。以上の状況から、来遊量は総じて低調であった前年並と予測される。漁場および体長については近年の傾向および最近の漁獲物の体長から判断した。三陸南部海域の定置網では例年5月から水揚げがあるが、各年級群の資源状態およびこれまでの漁況経過から、来遊水準は前年を下回ると予測される。三陸北部、道東海域の定置網では、予測期間中の来遊は前年同様、ほとんど無いと考えられる。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所